

デジタル ボイス

メールからファッションの現場から

安藤 房子

私は、いわゆる悩み相談のほかに、ファッションカウンセラーの仕事もしている。

カウンセラーを希望する方から、全身写真を二、三点メールで送っていただき、それに対して、アドバイスさせていたくというものだ。

ほかにも洋服の仕事をしていて、女性誌の表紙やCDジャケットのファッションプロデュース、ファッションサイトでの連載などもしている。先日、テレビ「7月24日通りのクリスマス」公開直前SP（テレビ朝日系列）で、映画「7月24日通りのクリスマス」の中谷美紀さんのファッションについてお話をさせていたく、という機会もあった。

ファッションの仕事をはじめたきっかけは、「人は見た目ではなくて中身が大事」というのは大うそだということ、心理学を学ぶにつれてわかったからだ。

人は、他人を外見で判断する生き物。そして、人の心は、外見にストレート

にあられる。恋愛を含む人間関係の落（しやれ）さんが多かった。ファッションを好み、失敗している人も多い。常にジーンズという女性や、黒のパツパツしか着ない女性も、グレイのパンツしか着ない男性も、異性に対しての媚びが足りないと思うのだ。

……なんてことを言いつつ、私はもともと、とてもタサイ。つきあう男性で、たいぶセンスが磨かれたと思えたからは「センスがない」「タサイ」とぶんぶん言われ続けてきた。

最近「モテ服相談」をしていて思うのは、ファッションコーディネートに

異性への媚び モテ服の基本

……なんてエラそうなことを言いたい人が多くいることだ。

黒田知水さんのようにミニスカートをはいたり、新庄剛志選手のようにキラキラしたアクセサリーをまどうから、失敗してしまう。タレントファッションと一般人のファッションは別ものなのに、そっくりまねしてしまう。でも実際には、四十代以上の女性でミニスカートが似合う人は少ないし、キラキラ・アクセサリーが似合う男性もごくわずか。

それともうひとつ。周囲の目をまったく気にしないファッション

（恋愛カウンセラー・作家、大江町出身）

毎月第一土曜日に掲載します

